

鶏卵を巡る情勢

1. 需給動向

- (1) 昭和60年度の自給率は98%。近年は95～96%で推移。
- (2) 消費量は、年により若干の変動はあるものの概ね安定的に推移。
- (3) 生産量は、平成23年度に東日本大震災の影響等により6年ぶりに250万トンを下回ったが、平成24年度以降は年により若干の変動はあるものの概ね安定的に推移。
- (4) 輸入量は、国内の鶏卵需要や価格の動向、為替レート等の影響を受けながら変動しているが、国内消費量の5%程度で推移し、そのほとんど(約9割)は加工原料用の粉卵が占める。主な輸入相手国は、オランダ、アメリカ、イタリア等。
- (5) 輸出量は、殻付が中心で、近年増加傾向で推移。輸出先は、輸送距離や動物の衛生条件等の制約から香港、シンガポールをはじめとするアジアが中心。

< 鶏卵需給の推移 >

(単位:千トン)

年度 区分	60	2	7	12	17	22	23	24	25	26	27 (概算)
消費量	2,199 (1.1)	2,470 (0.1)	2,659 (▲0.3)	2,656 (▲0.1)	2,619 (0.4)	2,619 (0.4)	2,633 (0.5)	2,624 (▲0.3)	2,642 (0.7)	2,629 (▲0.6)	2,632 (0.1)
生産量	2,160 (0.7)	2,420 (▲0.1)	2,549 (▲0.6)	2,535 (▲0.2)	2,469 (▲0.2)	2,506 (▲0.1)	2,495 (▲0.4)	2,502 (0.3)	2,519 (0.7)	2,502 (▲0.7)	2,521 (0.8)
輸入量	39 (32.2)	50 (11.6)	110 (5.8)	121 (1.4)	151 (12.7)	114 (12.9)	138 (21.1)	123 (▲10.9)	124 (0.8)	129 (4.0)	114 (▲11.6)
輸出量	[2] (▲77.8)	[73] (▲70.1)	[50] (47.1)	[211] (▲35.0)	[1,056] (36.3)	[789] (▲18.5)	[459] (▲41.8)	[722] (57.3)	[1,266] (75.3)	[1,888] (49.1)	[3,069] (62.6)

資料:農林水産省「食料需給表」

注1:()内は対前年度増減率。

2:輸入量及び輸出量は殻付き換算。

3:輸出量の[]内はトン表示。

2. 消費動向

- (1) 年間一人当たりの消費量は、近年、概ね横ばいで推移。
- (2) 家計消費の占める割合は、近年、概ね横ばいで推移。
- (3) 平成27年度における消費形態は、家計消費51.1%、業務・加工用48.9%。
- (4) 1人当たりの消費量は世界でも最高の水準。

< 一人1日当たり鶏卵消費量 >

(単位:g/日・人、%)

年度 区分	60	2	7	12	17	22	24	25	26	27
家計消費量①	30.7	29.7	29.3	28.5	27.0	27.5	27.1	26.9	27.1	27.5
業務・加工用	16.2	22.2	25.8	26.2	26.5	25.8	26.6	27.2	26.8	26.3
総消費量②	46.9	51.9	55.1	54.7	53.5	53.3	53.7	54.1	53.9	53.8
①/②×100	65.5	57.2	53.2	52.1	50.5	51.6	50.5	49.7	50.3	51.1

資料:総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」

3. 経営状況

- (1) 採卵鶏の飼養戸数は、小規模層を中心に毎年減少しており、平成28年2月1日現在の飼養戸数は2,440戸と前回に比べ4.7%減少。
- (2) 成鶏めす飼養羽数は、平成11年以降減少傾向で推移しており、平成19年は増加に転じたものの、平成20年以降は再び減少。平成26年以降は増加傾向で推移しており、平成28年は前年比0.8%増の134.6百万羽。
- (3) 一戸当たりの飼養羽数は、一貫して増加しており、平成28年は前年比5.8%増の55,200羽。
- (4) 平成28年における成鶏めす羽数規模10万羽以上層の飼養戸数は347戸（全体の15.7%）、飼養羽数は99百万羽（全体の73.9%）。

< 採卵鶏の飼養動向 >

区分		年								
		3	8	13	18	23	24	25	26	28
飼養戸数(戸)		10,100	6,800	4,720	3,600	2,930	2,810	2,650	2,560	2,440
(対前年比(%))		(-)	(▲7.0)	(▲3.5)	(▲12.0)	(▲5.8)	(▲4.1)	(▲5.7)	(▲3.4)	(▲4.7)
うち成鶏めす10万羽以上層(戸)		240	330	340	352	336	327	328	324	347
(シェア(%))		(2.5)	(5.0)	(7.3)	(10.7)	(12.5)	(12.8)	(13.5)	(14.0)	(15.7)
成鶏めす羽数(百万羽)		139.3	145.5	139.2	136.9	137.4	135.5	133.1	133.5	134.6
(対前年比(%))		(1.7)	(▲0.7)	(▲0.8)	(▲0.8)	(▲1.8)	(▲1.4)	(▲1.8)	(0.3)	(0.8)
うち成鶏めす10万羽以上層(百万羽)		43.9	64.0	69.2	82.3	90.1	90.3	91.6	93.5	99.4
(シェア(%))		(31.6)	(44.1)	(49.9)	(60.1)	(65.7)	(66.8)	(68.8)	(70.0)	(73.9)
一戸当たり飼養羽数	千羽	13,792	21,402	29,502	38,026	46,878	48,212	50,221	52,151	55,200

資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

注:1)種鶏のみの飼養者を除く。

2)3~9年は成鶏めす羽数300羽未満、10年以降は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く。

3)23年以前及び28年の対前年増減率は、調査未実施(センサス年)のため、前々年との比較である。

4. 価格動向

- (1) 鶏卵に対する需要は概ね横ばいで推移しており、自給率は約95%であるため、国内生産量の変動が価格変動と直結している(1%の生産量の変動が5.5%の価格変動につながる)。
- (2) 価格は、春から夏にかけて需給が低下するため下落し、8月中旬以降から12月にかけて需要が増加(鍋、おでん、クリスマスケーキ)するため、上昇する。
- (3) 卸売価格

- ① 平成23年度は、東日本大震災の発生により一時的に飼料供給が滞ったこと等により供給が減少したことから価格が上昇。その後、供給が回復したことから価格は概ね平年並みで推移。

- ② 平成24年度は、年度当初から低価格で推移し、5月には標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回ったため、成鶏更新・空舎延長事業が発動。10月以降は需要の回復等により前年を上回って推移。
- ③ 平成25年度は、5月13日に標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回り、2年連続して成鶏更新・空舎延長事業が発動。8月以降、猛暑の影響による供給減少等から価格が上昇し、12月には直近最高値(272円/kg)となり、例年に比べ高水準で推移。
- ④ 平成27年度は、前年に引き続き高水準で推移。
- ⑤ 平成28年度は、平成26年度と同水準で推移していたが、7月以降は例年に比べ需要が低調なこと等から、平成26年度を下回った。

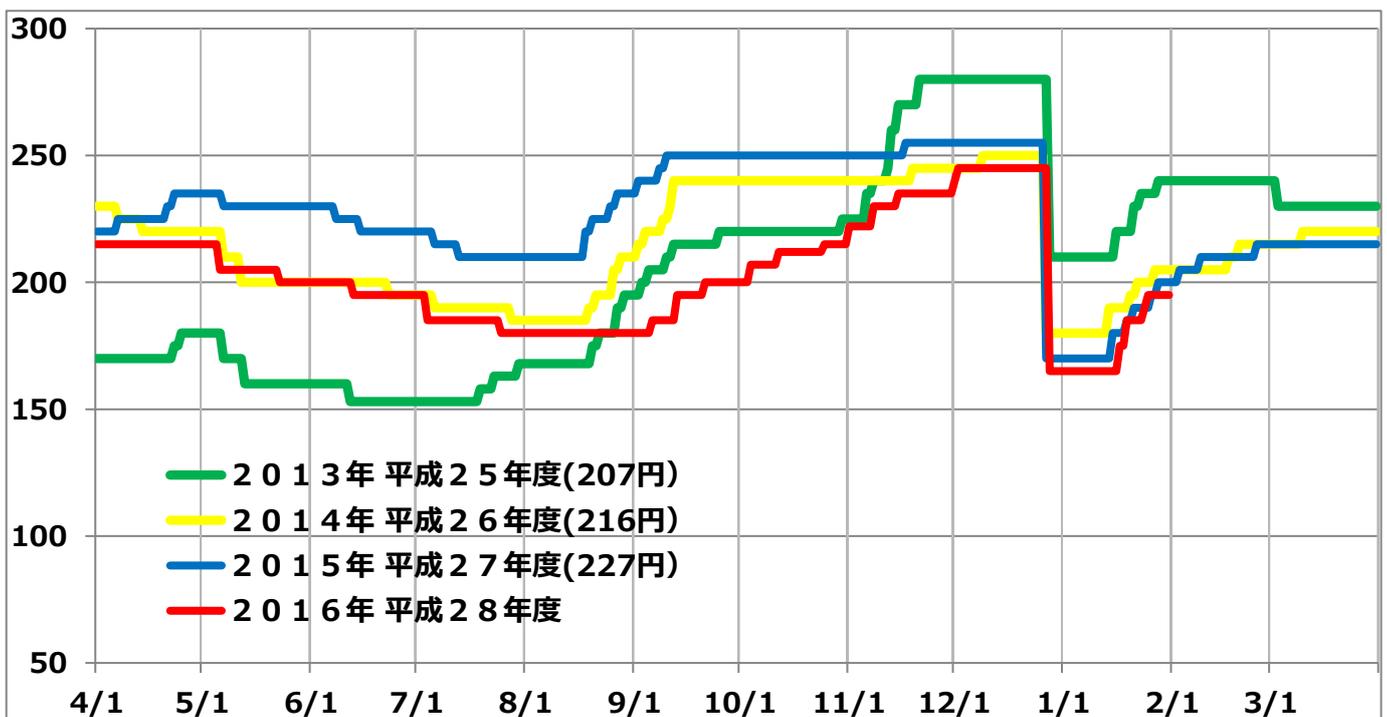
< 鶏卵価格の推移 >

(単位:円/kg、%)

区分	年度										
	60	2	7	12	17	22	24	25	26	27	28 (4-12)
農家 販売価格 (前年度比)	267	224	174	171	176	188	177	206	213	227	212
	115.8	124.2	114.7	93	93.2	112.2	97.3	115.8	103.4	106.7	90.9
卸売価格 (前年度比)	279	241	197	185	186	193	181	207	216	227	207
	115.8	120.5	116.6	92.5	90.7	110.3	96.3	114.4	104.3	105.1	87.9
小売価格 (前年度比)	350	344	296	310	221	224	216	228	242	250	242
	105.4	119.4	106.9	98.4	100.9	103.7	96.4	105.6	106.1	103.3	96.0

資料:農林水産省「農業物価統計」、全農たまご東京 M 相場、総務省「小売物価統計」
 注:1)小売価格は、14年7月よりMサイズ1kgからLサイズ10個に変更
 2)卸売価格は、消費税を含まない。

< 鶏卵卸売価格の推移 >



資料:全農たまご東京 M 相場